

## 「人権教育研究指定校事業」事業実施報告書

都道府県・指定都市名 ( 鳥取県 )

### 1. 調査研究のテーマ、概要

#### (1) 調査研究のテーマ

人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成

#### (2) 調査研究のテーマを設定した目的

人権教育の一層の充実が求められているという現状、また、学校教育において、いかに人権教育の目標を達成するかを考えたとき、人権教育を通じて育てたい資質・能力をバランスよく育てることは喫緊の課題である。

本県では、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」や「鳥取県人権教育基本方針―第3次改訂―」に基づき、年度ごとに学校教育における人権教育推進のための重点を定め、市町村教育委員会や各学校と連携しながら人権教育を推進し、全県的に一体感のある取組となるよう努めている。

とりわけ、人権教育を通じて育てたい資質・能力については、県内すべての学校で「人権教育全体計画」の中に明確に位置づけ、学校としての組織的な取組を推進する体制が整えられている。しかし、それだけでは十分でなく、効果的に児童生徒の育成につながる取組の充実を図る必要がある。

そのためには、参加型をはじめとした指導方法の工夫を含め、各教科等と人権教育との関連を図る視点が欠かせない。また、「人権教育・啓発に関する基本計画」でも指摘されているように、普遍的な視点と個別的な視点の往還も大切であると考え。これらの視点を中心に、研究指定校における人権教育の取組の充実を図り、普及に努めることで、各学校の児童生徒の「生きる力」を育む基盤としての人権教育推進につなげていきたい。

#### (3) 調査研究の概要

- ・児童生徒の発達段階に応じた効果的な学習教材の選定・開発、人権尊重の視点に立った授業づくりを行い、「育てたい資質・能力」の育成を図る。
- ・普遍的な視点と個別的な視点の往還を意識し、児童生徒が多面的・多角的に考え、主体的に学習に参加することができる授業づくりを行う。

### 2. 調査研究の体制・内容等

#### (1) 研究指定校の概要

学校名	米子市立湊山中学校
これまでの研究指定等の状況	特記事項なし
学級数	14学級 (うち特別支援学級: 4学級)
児童生徒数	全生徒数: 332人 (令和6年1月1日)
URL	<a href="https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/minato-j/">https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/minato-j/</a>

#### (2) 指定理由

研究指定校では、「ふるさとで心豊かに学び、いきいきと活動する」生徒の育成を図るため、令和元年度より「生徒が主体的に他者とかかわり、考えを広げ深める授業づくり」の研究を進めている。「生徒同士が学び合う活動の推進」と「伝え合い、考えを深め探究する活動の推進」を研究の柱に据え、取組を実践してきた。ソーシャルスキルトレーニングである「すわまるタイム」という少人数での話し合い活動の他、授業では必ず「流れ」を示し、授業に対する不安感をなくす取組も行っている。さらに、生徒が主体的に他者とかかわり合い、考えを広げ深める授業を展開することで、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答する生徒の割合が高まるなど、多様性を尊重する態度やコミュニケーションスキル等の人権教育を通じて育てたい資質・能力において一定の成果を上げてきている。

研究指定校を含む湊山中学校区は、令和5年度に米子市中学校区人権教育研究発表会の開催を予定している。この研究を進めるにあたっては、本校区の児童生徒に「安心・安全な家庭・学校生活、自尊感情、人権感覚」について実態を把握するための自作人権アンケート（10年前に自校の実態を把握するために作成したもの）を活用し、10年間にわたる取組の成果と課題に基づいた研究を推進している。その成果と課題を分析すると、生徒の人権学習に対する前向きな姿勢や人権意識の向上がみられる一方で、一定の割合の生徒は「自尊感情」や「自己肯定感」の低い状態にある。そのため、本校区では、校区人権課題の根幹を「自尊感情・自己肯定感」とし、話し合い活動や授業、学校生活でのかかわり合いやその生活基盤となる環境づくりを通して、「自尊感情・自己肯定感」を育成することを共通理解している。そして、校区研究主題を「かかわる つなげる ひろげる ～ともにつながり、高めあう、子どもの育成～」と設定し、就学前部会、学校教育部会、PTA部会が三位一体となって人権教育を推進している。

校区研究指定校においては、ありのままの自分を認めることが自己肯定感であり、それらを含めて自分自身をどのように評価するかを自尊感情と定義し、学校教育全体を通じた人権教育に取り組んでいる。「自尊感情・自己肯定感の育成」を研究の柱に据え、人権教育研究主題を「自尊感情・自己肯定感を高め、豊かな人間関係を構築する」と定め、その実現に向けて「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」に示された「人権尊重の視点に立った学校づくり」を参考に5つの部会を立ち上げ、それぞれの部会が連携を図りながら研究を進めている。

このように、幼保小中にもわたる系統的な取組やPTA、地域と連携した取組など様々なアプローチから研究を推進しており、研究指定校としてふさわしいと判断した。

### 3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「2. 事業の内容」を必ず確認すること。

①子供	○
②女性	
③高齢者	
④障害者	○
⑤同和問題	◎
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧-1 HIV感染者等	
⑧-2 ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	○
⑭その他（SDGs）	○

### 4. 調査研究の内容等

#### （1）調査研究の内容（※以下の%については、すべて肯定的回答を示している）

令和5年度全国学力・学習状況調査では、「人が困っているときは、進んで助けていますか」90.1%（全国比+3.1）、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」83.2%（全国比+5.6）と、全国と比べて高い結果となった。しかし、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対しては、80.2%（全国比-1.6）というやや低い結果となった。また、全学年を対象に実施した自校独自の「人権と仲間に関するアンケート」（5月実施）では、「差別的な事象に出会ったときにそれを指摘できる（技能的側面）」で76%、「現存する人権課題に関心を持ち解決しようとしている（価値的・態度的側面）」で82%であった。「自分自身に関するアンケート」では、「今の自分が好きだ」で70%、「自分にはよいところがある」で76%、「自分は誰かの役に立つことがある」で75%という結果となり、肯定的に自己を捉えている回答が8割を切る結果となり、自尊感情に関わる部分で課題が見られた。

調査の結果から、人権を尊重することの大切さを理解したり、ものごとを考えたりすることの大切さは理解しているが、自己の考えを発信したり、それを実行に移したりすること、自他の持つ力を出し合って課題を解決し共に良くなろうとすることにおいては、消極的な生徒が多くいることがうかがえる。また、自分自身を肯定的に捉えられない生徒も少なからずいることが実態として浮き彫りになった。その背景として、自分自身の意見や考えへの自信のなさや、目の前の課題解決に向け見方・考え方を広げ協働的に解決策を見出していく経験、その中で自分が役に立ったという実感の少なさがあると考えた。こういった自尊感情は、すべての教育活動の中で育まれるべきであり、中でも最も多くの時間を費やす「授業での学習場面」を意図的に仕組んでいくことによって効果的に高めていくことができると考えた。

研究を進めるにあたって、校区の研究テーマである「かかわる つながる ひろげる」をキーワードとし、「協働的な学びの中で、思いを伝えたり受け止めたりすること」「多様な意見や考えにふれ、考えを広げたり深めたりする力を身につけること」「学びを振り返って自己の見方・考え方を広げ、身近にある課題解決に生かしたり、目標の実現に向けて努力できたりする力を身につけること」を目標とし研究を進めることにした。本校で継続して取り組んでいる「すわまるタイム」（話し合い活動）でのかかわりを基盤とした、人権尊重の視点・特別支援教育の視点からの学びの仲間づくり、学びと生活の結びつきや振り返りを大事にした、誰もが学びたくなる授業づくりを研究の2つの柱に設定した。生徒は、学習活動を通じて多様な感じ方・考え方に会い交流することで、自分の見方や考え方・感じ方を明確にし、より広く深く物事を考えることができるようになり、自他を大切にしながら自分の生き方を深く考えることができるようになると考えた。また、学び合いを通じて課題解決の力を身につけることにより、地域など身近にある課題に主体的に取り組むなど、自らの学びを生活に広げていくことが期待できると考え、目標に沿って3つの部会を組織し、以下の仮説のもと、研究実践を進めていくこととした。

#### ①<研究仮説1>「受容的な人間関係づくり」についての視点

すわまるタイムや学習場面での学び合いなど、他とかかわる活動を多く設け、お互いを知り合うことによって、学級や集団に所属することへの安心感が生まれ、自己肯定感や自己有用感につながるだろう。自尊感情が育つことで、よりよい人間関係を自ら築こうとする生徒が育つだろう。

#### ②<研究仮説2>「対話を通して考えを深化する学びづくり」についての視点

さまざまな学習場面で、他と交流し多様な考えにふれることで、自他を認め合う基盤がつけられ、思いを伝えたり受け止めたりすることができる力が育つだろう。また、新たな考えや学習に出会う喜びを感じることで、自ら学びとつながっていきこうとする生徒が育つだろう。

#### ③<研究仮説3>「学びを生活・生き方にひろげる学びの場づくり」についての視点

多様な意見や考えにふれ、思いを伝えたり受け止めたりする場面を日常化すること、また自らの学びを振り返って考えることにより、自己の見方・考え方を広げ、それを生活や身近にある課題解決に生かしたり、目標の実現に向けて努力できたりする力を持った生徒が育つだろう。

### (2) 実施方法

#### ①「受容的な人間関係づくり」についての研究【かかわる部会】

落ち着いてのびのびと学べる環境づくり（学びの集団・人間関係づくり）を進めることは、仲間と意見を出し合い協働的にものごとを解決していこうとする行動の基礎になると考え、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを取り入れた「すわまるタイム」と名付けた活動を、5年前から月に2回程度行ってきた。この活動を通して身につけた仲間とのかかわり方を学習の場にも活用することで、自他を肯定的に捉え、お互いを認め合うことのできる集団の育成を目指した。

具体的には、話し合いの場面でのルール（共感的受容を基盤とする）を徹底し、ペア学習やグループ学習（3～4人）など少人数の学習の場面を設け、場面や学習効果を意図した上で、その使い分けをしていくようにした。また、「良い話し合いのポイント」を用い、話し合いの話型を示すことで、誰もが安心して自分の考えを発信できるように仕組んでいく工夫をした。

#### ②「対話を通して考えを深化する学びづくり」についての研究【つながる部会】

自校アンケートに見られる、人権課題など課題解決に対して主体的に関わっていこうとする思いがやや弱いという実態から、他者とつながる力、主体的な学びにつなげる力をつけていくことが必要であると考えた。そこで、受容的な人間関係を育成するための支援を工夫すること、学び合いの中で「自分が受け入れられている」「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくることをねらった。その上で、自分事として「語る」「学び合う」学習活動の場面を設定し、いろいろな答えが出せる課題や、いろいろな道筋で解決していくこ

とができる課題を授業に取り入れた。また、機会を見つけて「まちがいから学ぶ（生徒のまちがい、教師のまちがい）」場面を設けた。その際、生徒がマイナス思考にならないよう配慮し、皆の学びにつながっていることを示すようにした。他とのかかわりの中で、自分の考えを発信していくことへの意義を見出させる授業展開を工夫した。

### ③「学びを生活・生き方にひろげる学びの場づくり」についての研究【ひろげる部会】

生徒が、他との交流を通して自分の見方や考え方を広げること、自分から主体的に考え、ものごとに取り組めるようになることを目指すためには、日頃から自己決定・選択の場をつくっていくことが大切であると考えた。話し合い活動が日常化していることや、話し合い活動のルールが生かさされ、相手の話を集中して聞こうとする姿勢が身につけていることを基盤とし、「いろいろな考えがあっている」と思えることで、自分の良さをのびしたり、自信をもって自分の考えを伝えたりすることができる場面を設定することや、自己選択・決定の場を学習の中に設定することを目指した。具体的には、他との交流を促す活動や、考えを広げる発問や話し合いの場面を工夫すること、他者の参考となることながら自分の学習に生かせる場面をつくること、お互いの考えやふりかえりを班や全体で共有できる場面を設定することに取り組んだ。また、「自分が考えを述べるのがみんなの学びの役に立つ」という感覚を育てるために、どんな考えも否定せず受け入れ、考えの幅をひろげながらよりよい答えを目指す「ひろげるタイム」を授業の中に設定し、思考力・発信力と、自己有用感の向上を図った。

## (3) 検証・評価・改善・普及

### ①検証・評価・改善について

検証・評価にあたっては、本校で実施している「人権と仲間に関するアンケート」「自分自身についてのアンケート」を用い、本校生徒の課題として見られた、育てたい資質・能力の「技能的側面」「価値的・態度的側面」に関わる質問への肯定的回答の数値変化を分析・評価することにした。また、「自分自身に関するアンケート」から、自尊感情との関連についても分析を行うことにした。

以下の結果は、肯定的回答の割合と比較を示したものである。

質問項目	全校			1年生			2年生			3年生			
	肯定的回答			肯定的回答			肯定的回答			肯定的回答			
	R5.5	R5.12	比較	R5.5	R5.12	比較	R5.5	R5.12	比較	R5.5	R5.12	比較	
技能的側面	他の人の生き方から、すばらしいところを見つけたり、それを自分の生き方の反省にいかすことができる。	91.6	92.2	+0.7	91.8	86.4	-5.4	93.8	97.9	+4.2	91.4	95.1	+3.7
	差別的な態度を受けたり、一部の人たちが言った本当かどうかわからない噂や陰口などを聞いたとき、おかしいことを指摘できる。	77.8	71.8	-6.0	77.3	60.2	-17.1	72.9	79.4	+6.5	78.1	77.7	-0.4
	他の人の気持ちを考えたり、意見に耳をかたむけたり、逆に自分の考えを相手に伝えたりできる。	92.8	94.8	+2.0	88.2	92.2	+4.1	93.8	97.9	+4.2	95.2	96.1	+0.9
	学校生活での問題や課題を見つけたり、それを仲間と協力して少しでもよくしようとするには、進んで参加できる。	93.4	93.5	+0.1	91.8	88.3	-3.5	91.7	97.9	+6.3	94.3	96.1	+1.8
価値的・態度的側面	自分の命も他の人の命もかけがえのないものとして大切にしようとしている。	98.1	98.7	+0.6	98.2	100.0	+1.8	96.9	97.9	+1.1	98.1	98.1	-0.0
	多くの人との出会いを大切に、そこからいろいろな生き方を学んで、それを自分の生き方に活かそうとしている。	95.0	96.8	+1.8	94.5	98.1	+3.5	99.0	96.9	-2.1	95.2	96.1	+0.9
	今も残っているさまざまな人権問題に関心をもち、解決しようとしている。	80.3	80.9	+0.6	84.5	79.6	-4.9	85.4	85.6	+0.2	78.1	81.6	+3.5
	自分の良さや気に入っているところをいくつかあげることができ、それを大事にしたり伸ばしたりしようとしている。	81.6	85.4	+3.9	80.9	83.5	+2.6	85.4	90.7	+5.3	81.9	86.4	+4.5
自尊感情に関すること・他者との関わりに関すること	相手の個性や良さを認めたり、自分の思いと同じように相手の考えや希望も考えて行動しようとしている。	95.6	97.1	+1.5	96.4	97.1	+0.7	99.0	99.0	+0.0	95.2	97.1	+1.8
	今の自分が好きだ。	67.5	77.7	+10.2	69.1	75.7	+6.6	76.0	83.5	+7.5	66.7	78.6	+12.0
	自分にはよいところがある。	74.7	79.0	+4.3	77.3	77.7	+0.4	77.1	85.6	+8.5	73.3	79.6	+6.3
	自分は誰かの役に立つことがある。	76.6	81.2	+4.7	73.6	80.6	+6.9	75.0	87.6	+12.6	78.1	81.6	+3.5
	自分はまわりの友だちから大切にされている。	91.9	95.1	+3.3	89.1	91.3	+2.2	95.8	97.9	+2.1	93.3	97.1	+3.8
	友だちの新たな考えや意見に出会うことは楽しい、または自分の役に立つ。	96.9	95.5	-1.4	96.4	94.2	-2.2	97.9	100.0	+2.1	97.1	96.1	-1.0
	学校で学ぶことは、自分たちの生活と結びついていると思う。	95.0	96.8	+1.8	96.4	96.1	-0.2	91.7	99.0	+7.3	94.3	97.1	+2.8
	学校で学んだことや身につけた力は、自分のこれからの生活に役立つと思う。	93.2	95.8	+2.6	91.8	97.1	+5.2	91.7	96.9	+5.2	93.3	95.1	+1.8
みんなで力を合わせて、課題や問題を解決したり目標を達成したりしていくことは楽しい。	94.1	95.1	+1.1	95.5	95.1	-0.3	94.8	94.8	+0.1	94.1	94.1	+0.1	

アンケート結果において、2・3年生はほとんどの項目で数値が上昇した。また、「最も肯定的な回答」においても、ほとんどの項目で数値の上昇が見られた。特に2年生では、本校生徒の最も大きな課題であった「差別的な態度を受けたり、一部の人たちが言った本当かどうかわからない噂や陰口などを聞いたとき、おかしいことを指摘できる」の項目において、6.5ポイントの上昇が見られた。また、「今の自分が好きだ」「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立つことがある」という、自己肯定感や自己有用感につながる

項目で、全体的に数値が大きく上昇した。2年生では「自分は誰かの役に立つことがある」という項目で12.6ポイント増加し、自己有用感の高まりが見て取れた。

3年生においては、課題として表れていた自己肯定感の低さについても、「今の自分が好きだ」という項目で12ポイントの上昇が見られるなど、取り組みの成果が表れた。これらは、3つの部会の取組が相互によいかかわりとなった結果であると考え。特に、どの部会でも共通して取り組んだ、受容的・共感的人間関係のもとに学習を進めるという基盤ができてきていることも、その要因と考えられる。

一方で、1年生については、数値が下がった項目が見られた。特に、「差別的な態度を受けたり、一部の人が言った本当かどうか分からない噂や陰口などを聞いたとき、おかしいことを指摘できる」という項目では、17.1ポイントと大きくポイントが下がった。これは、自己を客観的に見ることができるようになってきたことや、「他者受容」の関係づくりが、遠慮を生んだり自身の思いを抑え込んだりすることにつながっている可能性が考えられることから、他者との関係性が変化してきたことの表れであると考え。

今後、取り組みを継続するとともに、教育相談などを活用しながら個へのはたらきかけを行ったり、要因の分析を行ったりして成果につなげていきたい。

## ②普及について

11月に開催した米子市人権教育研究発表会において、市内中学校教員をはじめとし、他校種教員、地域への普及・啓発を図ることができた。今後は、学校や県のホームページを活用し、本研究に係る取り組みについて情報発信を適宜行う。

## ③委託期間終了後の取組

人権教育15年プランに基づいた実践や成果を、中学校区人権教育研究会において校区全教職員に周知し、共通理解のもと系統的な取組として継続する。

## (4) 実施状況

### <都道府県・指定都市教育委員会>

時期	内容	備考
4月18日	第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者6名：指定校職員2名、米子市教育委員会1名、西部教育局1名、人権教育課2名
7月～10月 (随時)	指導主事による研究指定校訪問指導 ・授業研究会 7/12 ・校内研修会・指導案検討会 8/21 ・人権教育講演会(同和問題) 9/13 ・研究発表会事前打合せ 11/7	西部教育局1名、人権教育課1名 人権教育課1名 人権教育課2名 人権教育課1名
11月22日	米子市中学校区人権教育研究発表会	西部教育局3名、人権教育課3名
2月21日	○第2回人権教育研究推進事業連絡協議会の開催	参加者6名(指定校職員2名、米子市教育委員会1名、西部教育局1名、人権教育課2名)

### <研究指定校>

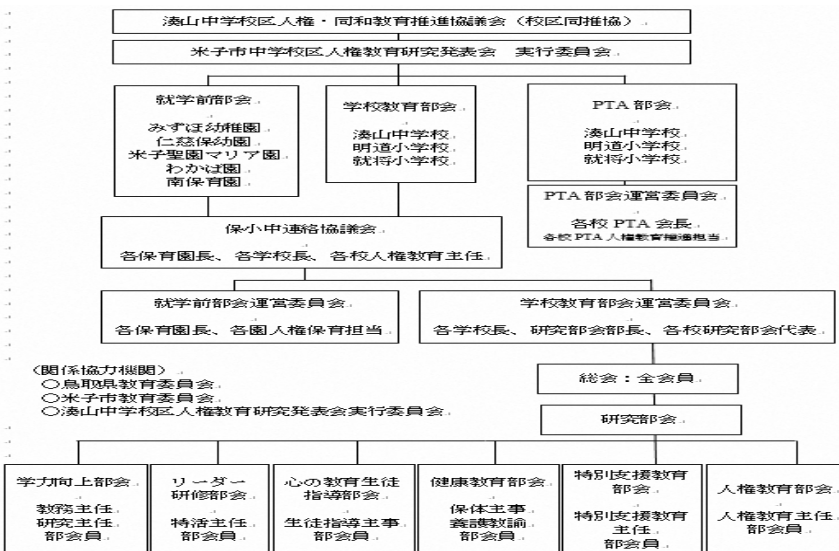
時期	内容	備考
4月19日	研究推進委員会	参加者10名(教職員)
4月26日	研究職員会	参加者25名(教職員)
6月16日	人権教育講演会(ユニバーサルデザインについて考える) 講師 江山人権福祉センター所長 石田重幸さん	参加者350名(生徒、教職員)
6月17日	人権教育講演会・手話体験 講師 手話支援員 福本和巳さん 他8名	参加者120名(1年生、教職員)
6月22日	研究職員会・研究部会	参加者25名(教職員)
6月28日	湊山中学校区同和教育推進協議会研修会 講師 就将小学校 三木徹校長 米子市教育委員会学校教育課 行司志津指導主事	参加者90名 (校区教職員・保育関係者)

7月12日	校内授業研究会・事後研修会（1年社会科） 指導助言 鳥取県教育委員会西部教育局 岩佐雄一指導主事 鳥取県教育委員会人権教育課 市谷誠裕指導主事	参加者 25名（教職員）
7月13日	研究推進委員会	参加者 12名（教職員）
8月17日	研究職員会・研究部会	参加者 25名（教職員）
8月21日	校内研修（指導案検討会） 講師 鳥取県教育委員会人権教育課 市谷誠裕指導主事	参加者 25名（教職員）
9月13日	人権教育講演会（同和問題） 講師 徳島県西部青年の会「友輝」 中倉茂樹さん	参加者 355名（生徒、教職員）
9月20日	研究職員会・研究部会	参加者 26名（教職員、就将小学校 三木校長）
10月31日	研究紀要の配布	150部 配布先：米子市内中学校 関係機関
11月22日	米子市中学校区人権教育研究発表会 教科（国、社、数、理、音、美、英、生単） 個別の人権課題：1年 同和問題（ネット差別） 2年 性の多様性 3年 同和問題（マイクロアグレッション） 指導助言 鳥取県教育委員会西部教育局 松田裕美子係長 米子市教育委員会学校教育課 岡田誠一指導主事 鳥取県教育委員会人権教育課 市谷誠裕指導主事	参加者 90名 （西部地区中学校教職員、高等学校教職員、関係機関職員）
3月13日	校内授業研究会（2年 特別の教科 道徳）	参加者 25名（教職員）

（5）人権教育に係る年間指導計画

別紙参照

5. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



（関係協力機関）

- 鳥取県教育委員会  
（人権教育課・西部教育局）
- 米子市教育委員会
- 湊山中学校区人権教育研究発表会実行委員会